

## 9 男女間の暴力について

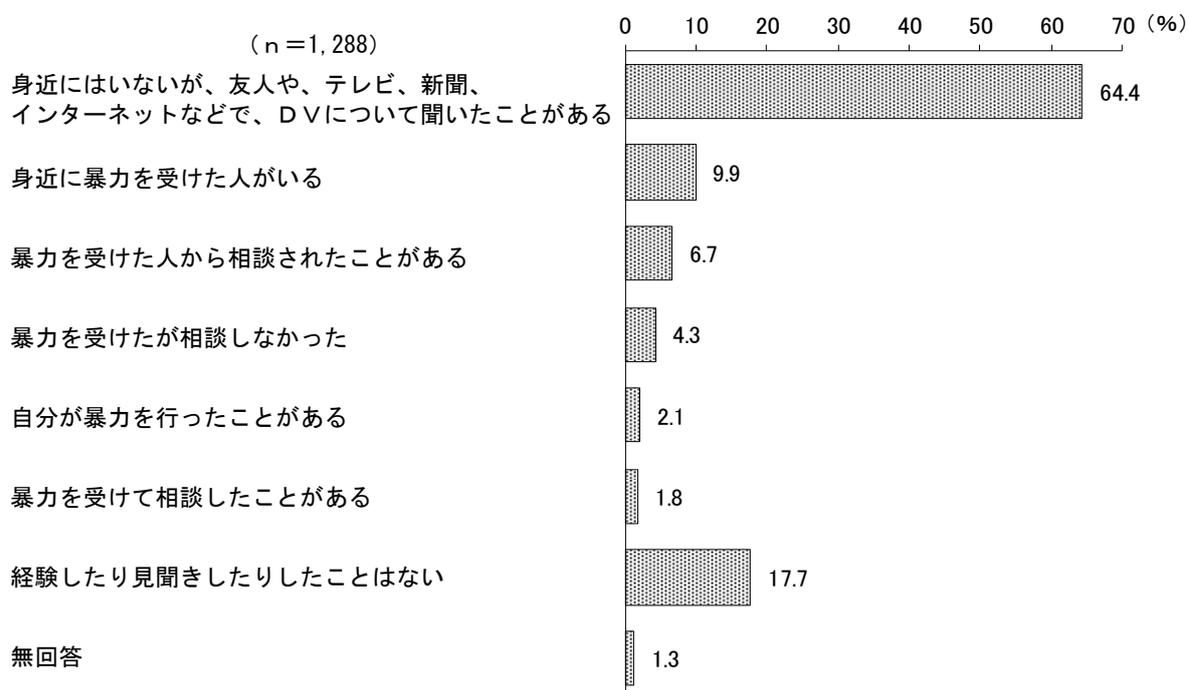
### (1) DVの経験等

問25 あなたは、「夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力（※）」（DV＝ドメスティック・バイオレンス）について、経験したり見聞きしたりしたことがありますか。次の中からいくつでも選んでください。

※ 暴力には、身体的暴力（なぐる、ける、物を投げつける等）のみならず、心理的攻撃（人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ等）、経済的圧迫（生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる等）、性的強要（性的な行為を強要される、避妊に協力しない等）なども含まれます。

[n=1,288]

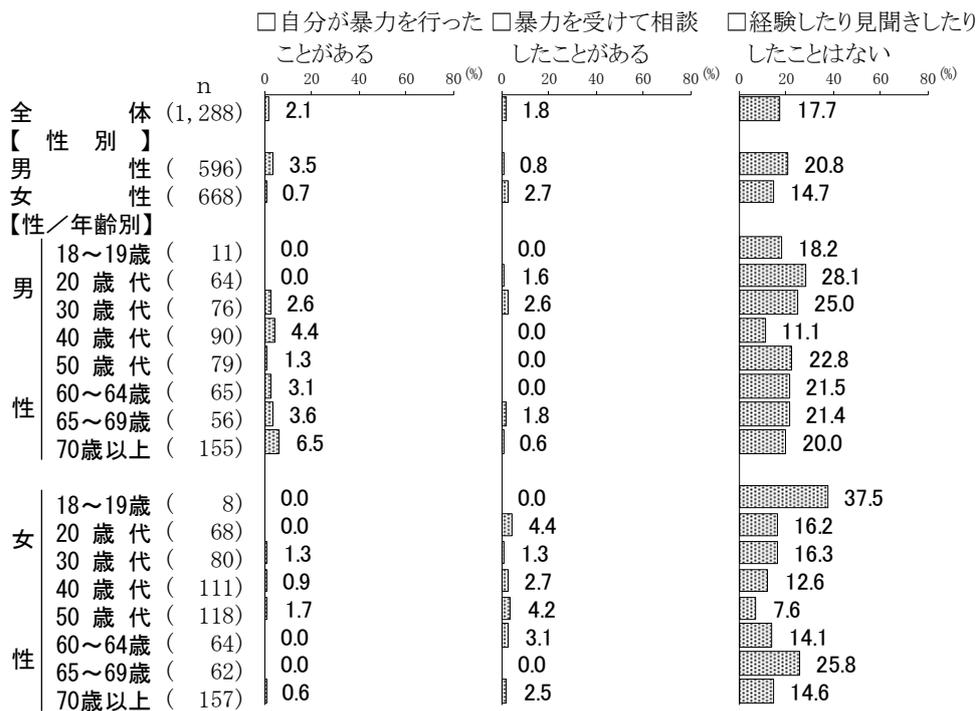
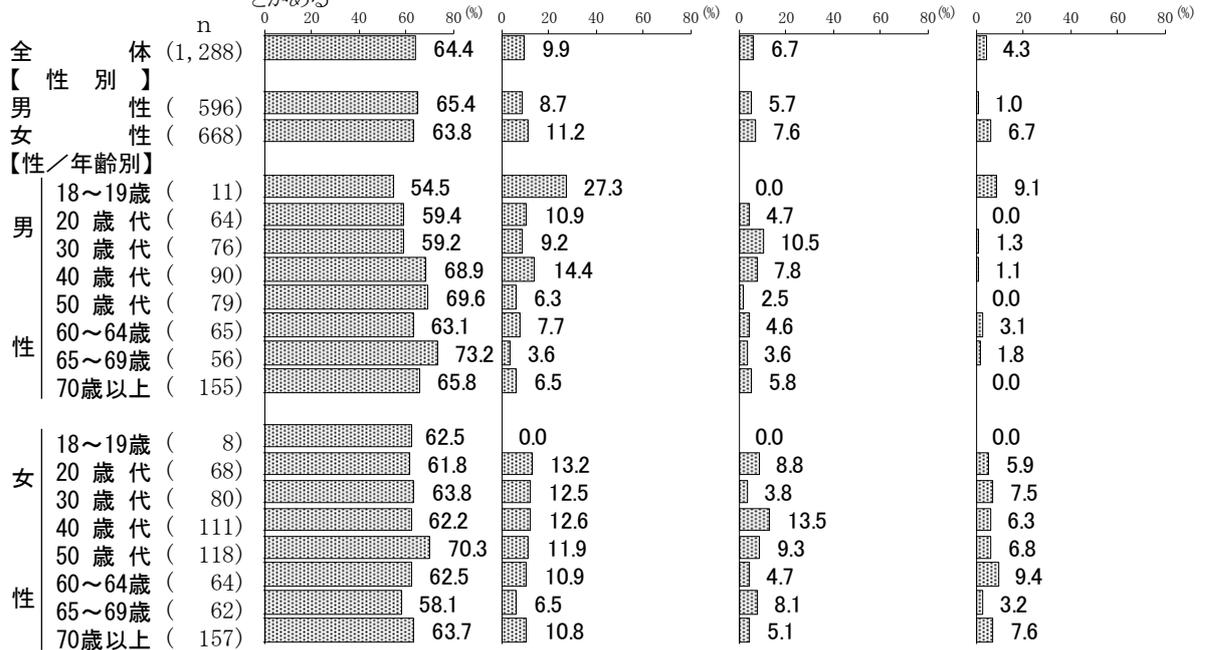
1	暴力を受けて相談したことがある	1.8%
2	暴力を受けたが相談しなかった	4.3
3	自分が暴力を行ったことがある	2.1
4	身近に暴力を受けた人がいる	9.9
5	暴力を受けた人から相談されたことがある	6.7
6	身近にはいないが、友人や、テレビ、新聞、インターネットなどで、DVについて聞いたことがある	64.4
7	経験したり見聞きしたりしたことはない	17.7
	(無回答)	1.3



全体でみると、「身近にはいないが、友人や、テレビ、新聞、インターネットなどで、DVについて聞いたことがある」(64.4%)が6割半ばで最も高く、次いで「身近に暴力を受けた人がいる」(9.9%)、「暴力を受けた人から相談されたことがある」(6.7%)、「暴力を受けたが相談しなかった」(4.3%)、「自分が暴力を行ったことがある」(2.1%)の順となっている。

一方、「経験したり見聞きしたりしたことはない」(17.7%)は2割近くとなっている。

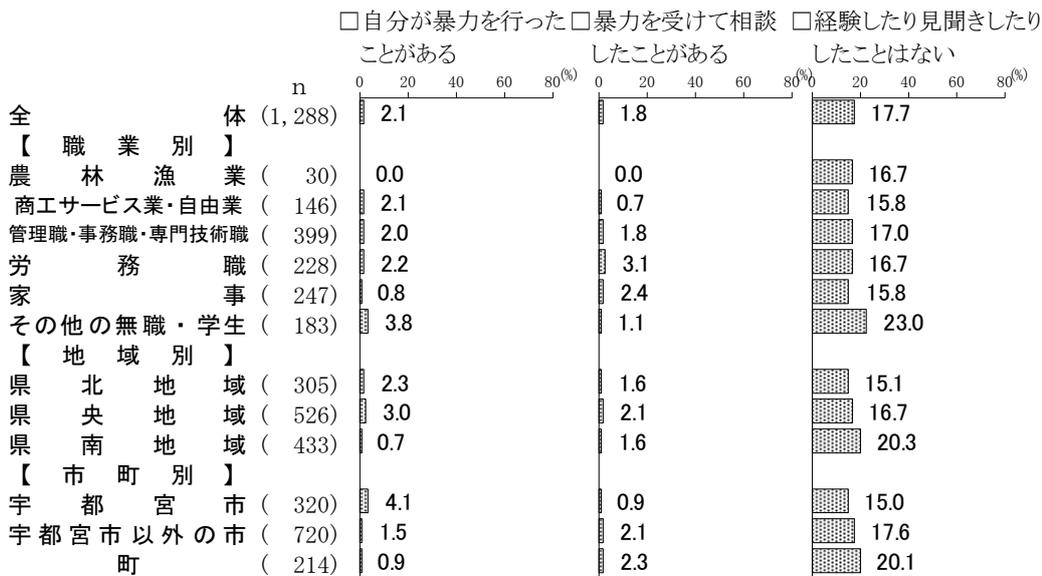
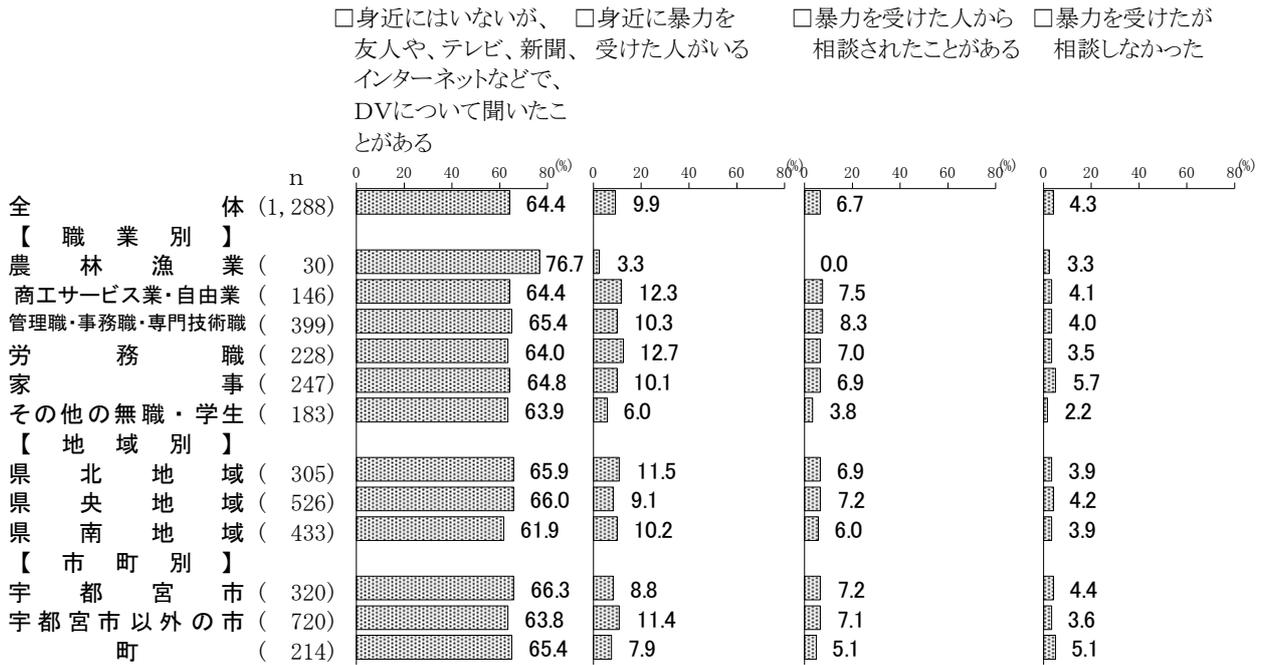
【性別・性／年齢別】 □身近にはいないが、友人や、テレビ、新聞、インターネットなどで、DVについて聞いたことがある □身近に暴力を受けた人がある □暴力を受けた人から相談されたことがある □暴力を受けたが相談しなかった



性別で見ると、「経験したり見聞きしたりしたことはない」では〈男性〉(20.8%)が〈女性〉(14.7%)より6.1ポイント高くなっている。「暴力を受けたが相談しなかった」では〈女性〉(6.7%)が〈男性〉(1.0%)より5.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「暴力を受けた人から相談されたことがある」では〈女性40歳代〉が13.5%で他の年代と比べて高くなっている。「自分が暴力を行ったことがある」では〈男性70歳以上〉が6.5%で他の年代と比べて高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「身近にはいないが、友人や、テレビ、新聞、インターネットなどで、DVについて聞いたことがある」では〈農林漁業〉が76.7%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

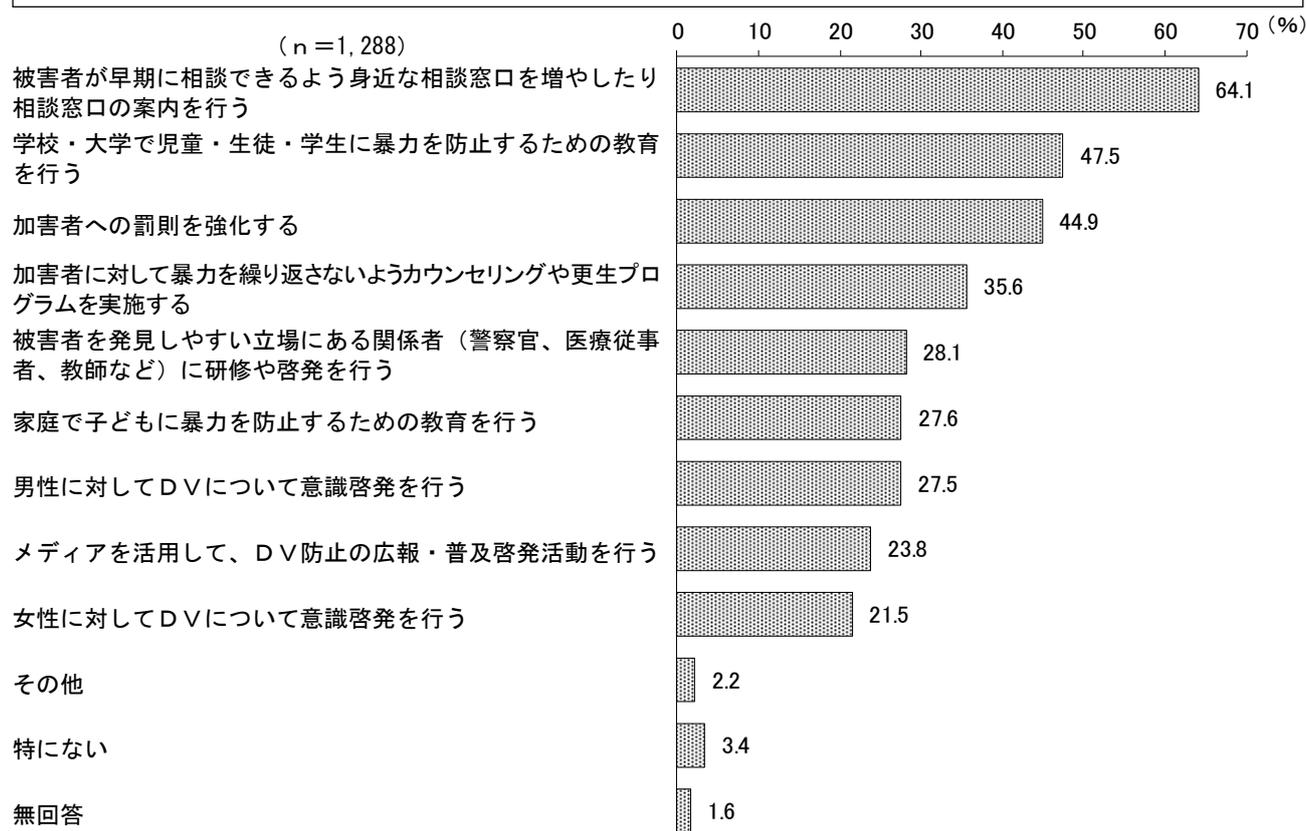
市町別でみると、「自分が暴力を行ったことがある」では〈宇都宮市〉が4.1%で他の市町と比べて高くなっている。

## (2) 男女間の暴力を防止するために重要な対策

問26 男女間の暴力を防止するために重要だと思う対策を次の中からいくつでも選んでください。

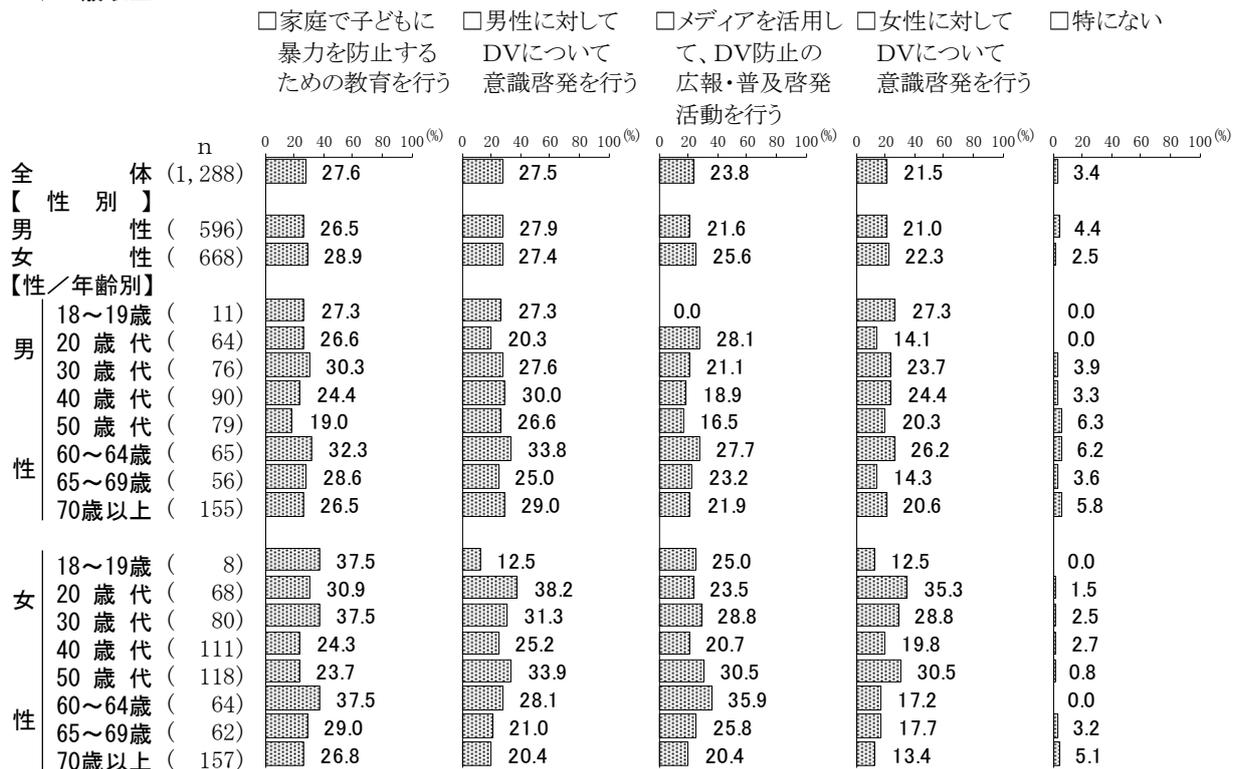
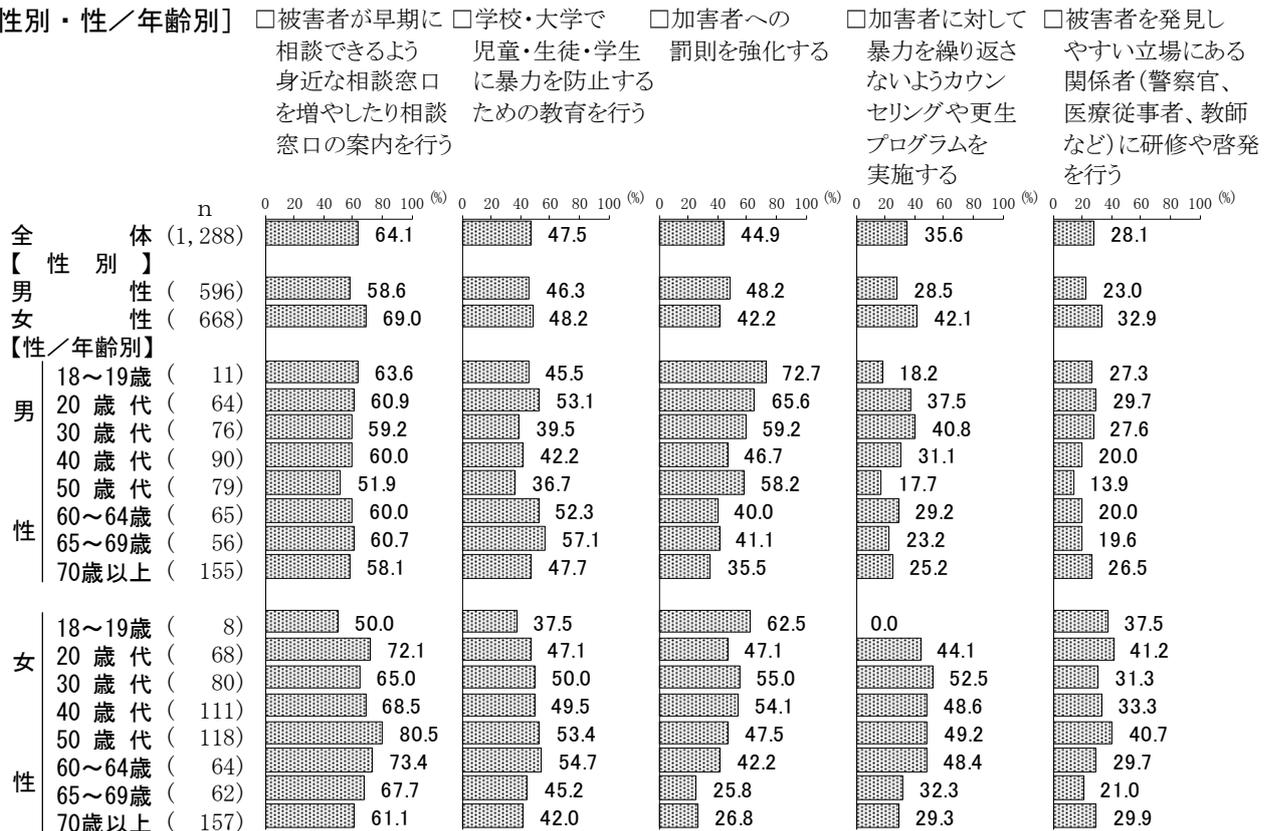
[n=1,288]

1	男性に対してDVについて意識啓発を行う	27.5%
2	女性に対してDVについて意識啓発を行う	21.5
3	被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やしたり相談窓口の案内を行う	64.1
4	メディアを活用して、DV防止の広報・普及啓発活動を行う	23.8
5	学校・大学で児童・生徒・学生に暴力を防止するための教育を行う	47.5
6	家庭で子どもに暴力を防止するための教育を行う	27.6
7	加害者への罰則を強化する	44.9
8	加害者に対して暴力を繰り返さないようカウンセリングや更生プログラムを実施する	35.6
9	被害者を発見しやすい立場にある関係者（警察官、医療従事者、教師など）に研修や啓発を行う	28.1
10	その他	2.2
11	特にない (無回答)	3.4 1.6



全体でみると、「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やしたり相談窓口の案内を行う（以下『相談窓口の増設・案内』とする。）」(64.1%) が6割半ばで最も高く、次いで「学校・大学で児童・生徒・学生に暴力を防止するための教育を行う」(47.5%)、「加害者への罰則を強化する」(44.9%)、「加害者に対して暴力を繰り返さないようカウンセリングや更生プログラムを実施する（以下『加害者へのカウンセリングや更生プログラムの実施』とする。）」(35.6%)、「被害者を発見しやすい立場にある関係者（警察官、医療従事者、教師など）に研修や啓発を行う（以下『関係者に研修や啓発を行う』とする。）」(28.1%) の順となっている。

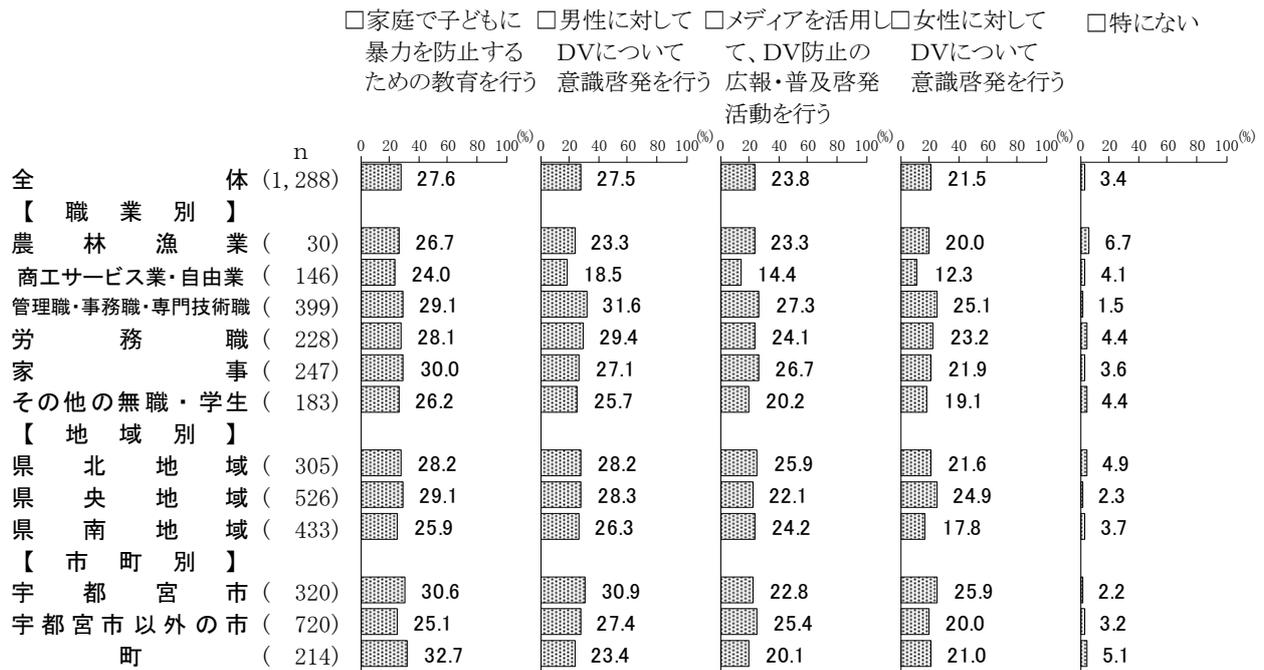
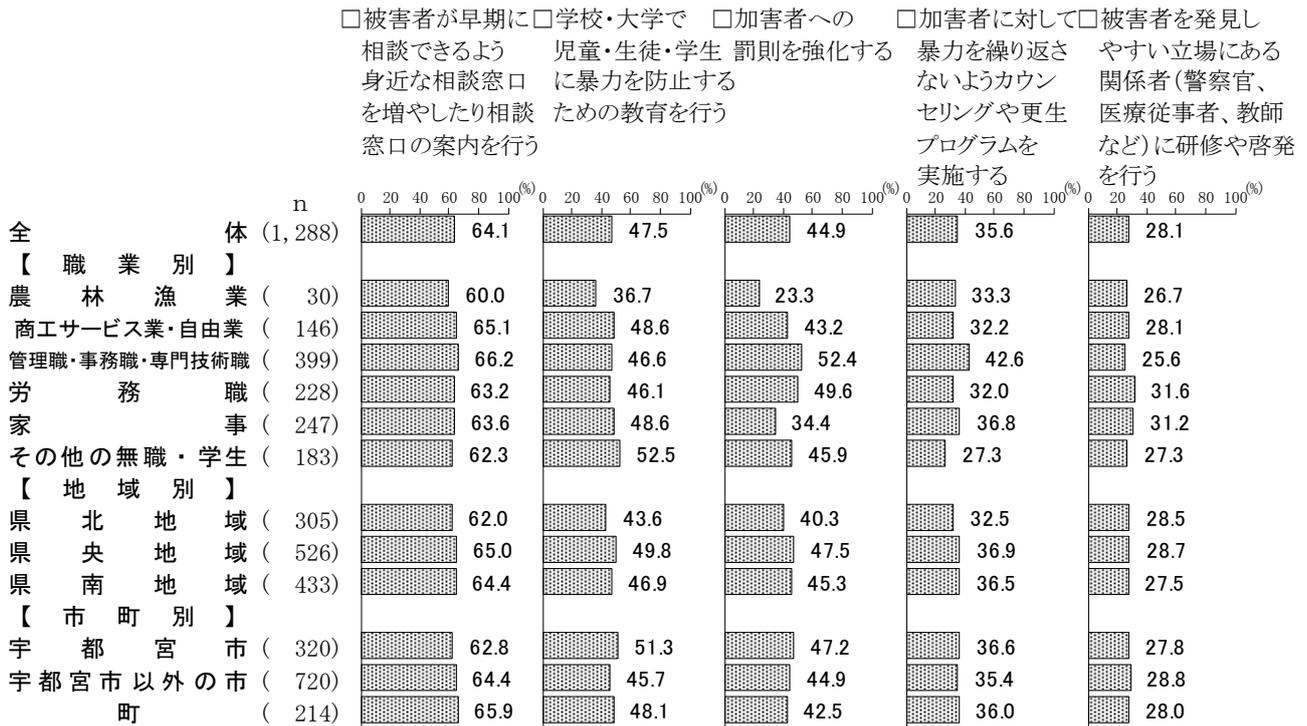
【性別・性／年齢別】



性別でみると『相談窓口の増設・案内』では〈女性〉(69.0%)が〈男性〉(58.6%)より10.4ポイント高くなっている。『加害者へのカウンセリングや更生プログラムの実施』では〈女性〉(42.1%)が〈男性〉(28.5%)より13.6ポイント高くなっている。『関係者に研修や啓発を行う』では〈女性〉(32.9%)が〈男性〉(23.0%)より9.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『相談窓口の増設・案内』では〈女性50歳代〉が80.5%と高くなっている。「加害者への罰則を強化する」では〈男性20歳代〉が65.6%と高くなっている。『加害者へのカウンセリングや更生プログラムの実施』では〈女性30歳代〉が52.5%と高くなっている。『関係者に研修や啓発を行う』では〈女性20歳代〉が41.2%、〈女性50歳代〉が40.7%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、「加害者への罰則を強化する」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が52.4%と高くなっている。『加害者へのカウンセリングや更生プログラムの実施』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が42.6%と高くなっている。

地域別・市町別では、大きな傾向の違いはみられない。